

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名

埼玉県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	神川町立神川中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	1	13	27
生徒数	155	153	160	6	474	

研究の概要

1. 研究主題

基礎・基本の定着と個を生かした「わかる授業」の実践
- 確かな学力の育成をめざして -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

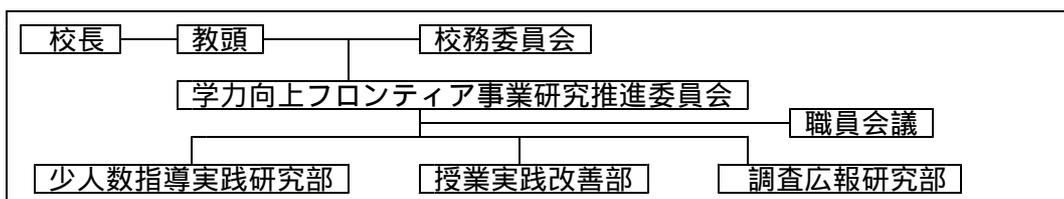
- ・ 1年生・数学
生徒の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。
- ・ 1年生・社会
学校として、当該教科に関する研究実績があるため。
- ・ 1年生～3年生・理科
これまでの研究成果と生徒に対する実態調査の結果から、実施学年・教科の枠を広げ、研究に取り組むため。
- ・ 1年生～3年生・保健体育
学校として当該教科に関する研究実績があるため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 基礎・基本の定着と個を生かした「わかる授業」の実践 - 確かな学力の育成をめざして - 研究の見通し(仮説)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数指導など個に応じたきめこまかな指導をすれば、確かな学力が向上するであろう。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究組織の確立と研究計画の作成 ・ 先進校視察、公開発表会校参加 ・ 学力に関する調査の実施および家庭への広報活動 ・ 少人数指導の充実および工夫 ・ 個を生かした「わかる授業」の実践研究および個人テーマ研究
--------	---

平成16年度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎・基本の定着と個を生かした「わかる授業」の実践 - 確かな学力の育成をめざして - <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数指導など個に応じたきめこまかな指導をすれば、確かな学力が向上するであろう。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間活動計画の作成 ・ 少人数指導の工夫と改善 ・ 学力や家庭生活に関する調査の実施や広報活動 ・ 「個を生かした」わかる授業の実践研究 ・ 評価の工夫
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

少人数指導を行った教科においては、数学で質問紙調査を行ったところ習熟度別授業について50%の生徒が40人の一斉授業と比べてわかりやすかったと答えている。また社会の調査では、習熟度別について91%の生徒が「大変よくわかった」「わかった」と答えている。また、保健体育の調査ではコース別授業について97%の生徒が「高まった」「やや高まった」と回答している。少人数によるきめこまかな指導が生徒の意欲や理解度を高めている。

2. 今後の課題

少人数指導においては、習熟度別やコース別などの指導形態で行う単元を増やし、その単元の特色に合わせた指導形態を確立すること。また、全教科でわかる授業を展開し、子どもたちの学力を伸ばすこと。さらに指導と評価の一体化のために各教科で評価のあり方を工夫する必要がある。

学力把握のための学校としての取組

- ・わかる授業のための質問紙調査（全学年7月）...授業の理解度や家庭学習等についての調査。
- ・教研式学力調査NRT（1年生7月）...テストによって計測可能な学力の調査
- ・基礎学力の定着度のテスト（1～3年9月）...五教科の基礎・基本がどれだけ身についたかを調べた調査。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

保護者・地域への説明会（10月8日、12月18日、2月5日）
 研究成果普及のためのHP作成（12月3日）
 フロンティアだよりの発行（学期に1度）
 3月2日北部地区学力向上推進協議会にてフロンティアスクールの成果をフロンティアティーチャーが発表予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無